

|          |              |         |    |     |         |
|----------|--------------|---------|----|-----|---------|
| 授業科目名・形態 | 成人看護方法論Ⅰ 演習  | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 2       |
| 科目担当者氏名  | 渡邊 知子・井澤 美樹子 | 実務経験の有無 | 有  | 開講期 | 2年前期・後期 |

### 【授業の主題】

疾患の慢性期にある人や慢性疾患をもつ人の健康障害と家族を含めた生活障害を理解し、アドヒアランスやセルフケア能力を支援することで生活の維持継続に必要な看護援助の方法を学ぶ。また、生活習慣病のひとつであるがんに関連した人の経験や成人期の発達課題への影響を視野に入れた看護援助について学ぶ。

### 【到達目標】

1. 疾患の慢性期にある人や慢性疾患をもつ人の健康障害と生活障害を学ぶ。
2. 生活習慣病による成人期の発達課題と家族への影響を学ぶ。
3. 成人期の健康障害と生活障害を軽減するための看護援助を学ぶ。

### 【授業計画・内容】

| ＜井澤＞                     | ＜渡邊＞                     |
|--------------------------|--------------------------|
| 第1回 慢性期看護の考え方            | 第16回 慢性の内部環境調節障害をもつ人の看護① |
| 第2回 慢性期にある疾患と治療          | 第17回 慢性の内部環境調節障害をもつ人の看護② |
| 第3回 慢性期にある人の特徴           | 第18回 慢性の脳・神経機能障害をもつ人の看護① |
| 第4回 慢性期にある人と家族の理解        | 第19回 慢性の脳・神経機能障害をもつ人の看護② |
| 第5回 慢性期にある人と家族への援助①      | 第20回 慢性の脳・神経機能障害をもつ人の看護③ |
| 第6回 慢性期にある人と家族への援助②      | 第21回 慢性の運動機能障害をもつ人の看護    |
| 第7回 慢性の呼吸機能障害をもつ人の看護①    | 第22回 慢性の生体防御機能障害をもつ人の看護① |
| 第8回 慢性の呼吸機能障害をもつ人の看護②    | 第23回 慢性の生体防御機能障害をもつ人の看護② |
| 第9回 慢性の循環機能障害をもつ人の看護①    | 第24回 がん医療の特殊性と看護         |
| 第10回 慢性の循環機能障害をもつ人の看護②   | 第25回 がん治療を受ける人の看護        |
| 第11回 慢性の代謝機能障害をもつ人の看護①   | 第26回 慢性の排泄機能障害をもつ人の看護    |
| 第12回 慢性の代謝機能障害をもつ人の看護②   | 第27回 慢性の性機能障害をもつ人の看護     |
| 第13回 慢性の視覚機能障害をもつ人の看護    | 第28回 慢性の造血機能障害をもつ人の看護①   |
| 第14回 慢性の栄養摂取機能障害をもつ人の看護① | 第29回 慢性の造血機能障害をもつ人の看護②   |
| 第15回 慢性の栄養摂取機能障害をもつ人の看護② | 第30回 まとめ                 |

【授業実施方法】 講義、演習、およびグループワーク

【授業準備】 既習の科目（特に『人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ』）の復習を行い、講義に臨んでください。

【主な関連する科目】 成人看護学概論、病態治療学Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

### 【教科書等】

成人看護学 慢性期看護論 第3版 スーベールヒロカリ、系統看護学 別巻 リハビリテーション看護 医学書院  
NICE 成人看護学 慢性期看護 改訂第4版 南江堂、系統看護学 別巻 がん看護学 第3版 医学書院  
NICE 成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂

### 【参考文献】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学2（呼吸器）、成人看護学3（循環器）、成人看護学8（腎・泌尿器）、別巻 臨床放射線医学、以上医学書院。新体系看護学全書 成人看護学6（脳・神経）、成人看護学8（内分泌・栄養・代謝）、成人看護学11（運動器）、以上メジカルフレンド社、など 病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用した教科書も使用します。

### 【成績評価方法】

筆記試験（80%）、講義への取り組み姿勢・提出物等（20%）で総合的に評価します。

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

脳血管障害専門病院やリハビリテーション病棟、国立放射線研究施設附属病院での先進高度医療に伴う専門性の高い看護を経験しました。幅広い経験で得られた知見から、慢性期看護や慢性疾患の看護について講義します。

### 【学生へのメッセージ】

疾患の慢性期、あるいは、慢性疾患で生じる健康障害と生活障害を軽減するために必要な看護援助と多職種との連携について考えましょう。